



【新たにリセットして行く神の家族】

申命記8章1節-7節・30章2-3節 暗唱聖句:申命記30章2-3節

説教者: 鄭南哲牧師

(Rev.Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズの信仰の家族のみなさん!一週間もみんなお元気でしたか。

愛する教会の信仰の家族みなさん!本日はようやく延期された2020年度の教会信徒総会が行われる日です。1年間も神様のご栄光のため、主の教会のため、一人の尊い魂の救いの為、心を尽くし、力を尽くしてキリストの愛を持って、捧げ、分け与え、仕えて下さったみなさんお一人お一人の尊い献身と尊い仕えに心から感謝致します!主イエスキリストの豊かな恵みと神の報いがみなさんの上に溢れますよう心からお祈り致します!今年は、思わぬコロナウイルスという感染症の大流行により、我らの生活が非常に混乱になっています。祈りながら、ずっと今の時期に浮かんで来た一つの言葉が「リセットする」という言葉でした!パソコンを使う時、ウイルスやトラブルにより、パソコンの正常的な機能が一時的におかしくなった時、やるべき作業がリセットつまり、元どおりの初期化する事です。それによって、非常にこんがらかれていた全体のシステムとファイルが元の通りの機能とシステムに戻ります。もしかして神様が今まで忙しすぎて来ている中で、我らが失って来た人生の大切なところをもう一度悟らせ、取り戻して下さるリセットのタイミングではないかと気がします。大変混乱と不安な今の時代の中こそ、もう一度、神様の関係と神の御言葉にしっかり立ち返って自分を点検し、聖書が教えて下さる本来の信仰と生き方、価値観に取り戻す新たな機会として受け止めれば、今年一年我らの家庭と主の教会は必ず祝福され、守られ、満たされていくと確信します!

<1. 申命記とは>

ヨセフの時にエジプトに移住したイスラエルの民は430年間の奴隷生活を終え、神様の導きによって、出エジプトされますが、3ヶ月の旅を終えてシナイ山に着きます(出エジプト記)。イスラエルの民がシナイの荒野で1年間滞在した(レビ記)後、ふたたび約束の地にむかっの38年間の長い旅を終え、ようやくモアブの平地に着くまでの全旅程が記録された聖書が民数記であり、民数記は神様に対する絶対信仰を求められる聖書だと申し上げました。イスラエルの民はそのモアブの平地で約2ヶ月間滞在されましたが、このとき神様がモーセを通して最後に絶対従順へのメッセージをくださいましたが、これが申命記という聖書の内容です。申命記を英語ではDeuteronomyと言いますが、この意味は「第二の律法(the second law)」もしくは「繰り返される律法(repeated law)」という意味です。つまり、申命記は「新しく与えられた律法ではなく、すでに与えられた神の律法に対する繰り返しの再確認と詳しく敷衍(ふえん)」されたため付けられた名前です。

<すると神様はなぜモアブの平地で律法を改めて説明されたのでしょうか?>

ここには二つの理由がありました。一つ目は、いまモアブに集まっている人々は出エジプトした新しい第二世代のイスラエルの民だったからです。40年間の長い荒野の放浪の中で、シナイの荒野で神様からの律法を聞き、与えられても1世代(せだい)の人々は不従順と不信仰にしまいみんな荒野で死んでしまいました。その中で確実に神の律法と約束を信じ切って従い通したヨシュアとカレブだけが残りました。そういうわけで新しい世代に神様からの律法を改めて説明する必要がありました。二つ目は信仰の民がカナン地に入って住む時、その地の人々と区別された神様の民として生きるために律法を再び説明する必要があったからです。つまり、約束の地に入る前に、その地の異邦人たちの偶像崇拜と不道德から区別される生活をするために神様側から与えられた御言葉が申命記です。ですから、申命記はモーセがモアブの平地で神様の御言葉を語った最後の説教だとも言えます。

<2. 申命記の構成と内容:神様がモーセを通して与えられた荘厳なメッセージの内容:後ろを、上を、前を眺めなさい>

申命記は34章で構成されている申命記は主に3パートで分けられています。

一番のパートは1-4章までですが、ここでは出エジプトしてから特に、カデシュ・バルネアからモアブの平地に至るまでの旅程を振り返った内容です。この申命記の初めの部分を“後ろを振り返ってみなさい”という内容です。神様は40年の荒野での失敗と挫折をとおしてでも教えられるようにと願われたので、モーセをとおしてイスラエルの民が過去を振り返ってみながら失敗と挫折さえも忘れないようにされたのです。

申命記の二番目のパートは5-27章までですが、ここでは上を見て神様を見上げるようにし、もう一度律法を教え、教訓される部分です。申命記5章は十戒から始まります。5章3節をみると“主が、この契約を結ばれたのは、私たちの先祖たちではなく、今日、ここに生きている私たちひとりひとりと、結ばれたのである。”つまり、神様から与えられた十戒は過去自分たちの先祖たちに与えられていた過去のものではなく、今のイスラエルの民にもまた与えられ適用されるものであることを確信させてくださっています。ですから申命記の二番目のパートは“神様の

信仰の民として今働いておられ、神のおきてと律法を下さる上を、もう一度今上を見上げなさい!”と教える内容です。

そして、申命記の三番目のパートは28章以後ですが、カナンの地に入ってからどう生きるべきであるかを語る‘前を、未来を見上げなさい!’内容が記録されています。この最後の部分ではイスラエルの民がカナンの地に入って住む時、神様の御言葉に絶対的に従って生きようと強調されています。ここでは“あなたがたは…してはならない”という言葉が何度も繰り返されています。つまり“新しい生活のためにしっかり整え、前を眺めなさい”という内容が中心的です。

申命記の構成をまとめてみると、神様はご自分の民に働きかけた40年間の旅程の中で恵みと失敗を覚えさせ、上からの神様のおきてをふたたび聞かされた後、いずれ、入ろうとしているカナンの地に入ってからどう生きるべきなのかを教えてください。申命記は“立ち止まって後ろを振り向いてみなさい”、“いつも上を見上げなさい”そして“しっかり神の導きと約束を信じ切って、従い通しつつ、ひたすら、前向きに進みなさい!”でまとめることができます。

<3.今日の本文の内容を通して教えられる申命記全体のメッセージ>

<(1) 荒野での信仰の訓練>

今日の本文である申命記8章はモーセがイスラエルの民に説教した二番目のパートでもありますが、申命記全体のメッセージが含まれています。何度も申し上げていますが、エジプトからカナンまでの直線距離だと2週間で入れる距離でした。1ヶ月あれば十分入れる距離です。なのにもかかわらず1年でもなく、10年でもなく、40年の長い年月がかかったというのはこの40年の期間がけっして偶然や失敗ではなくなにかを教えようとする神様の意図があることが分かります。イスラエルの民には訓練が必要だったため40年間荒野を通らせたのです。いままでの40年がどんな意味があったのかを説明しているところが今日の本文の内容です。今日の本文では3つのことを教えて下さっています。

一つは“覚えなさい”という命令です。(申命記8:2) 申命記で特によく出てくる言葉がこの覚えなさいです。

申命記5章では十戒を言っている中5章15節で“あなたは、自分がエジプトの地で奴隷であったこと、そして、あなたの神、主が力強い御手と伸べられた腕とをもって、あなたをそこから連れ出されたことを覚えていなければならない。それゆえ、あなたの神、主は、安息日を守るよう、あなたに命じられたのである。”その他いろんな箇所からも強調されています。いったいなぜ神様は40年を覚えなければならないとおっしゃったのでしょうか?

二つの理由は、救いの神を、つまり、救いの始まりとその旅程の完成は神様の御力にあることを覚えつつ、忘れないようにさせるためです。旧約特に創世記から申命記までは救いの神様が表されていますが、40年間を覚えなければならない大切な理由はこの救いの神様を忘れないで、信じるようにさせるためでした。神様はイスラエルの民がカナンの地に入って住む時“過越の祭り”を守るようにと命じられました(出12章)。これもエジプトから奴隷だったイスラエルの民を救ってくださった神様を覚えさせるためでした。エジプトで10回目の災いであった長男たちの死を通してイスラエルの民を救い出されるとき、イスラエルの民の家の門柱(もんちゅう)に羊の血をつけるように命じられました。その血によってイスラエルの民の長男たちは死なずに、その災いは過ぎ越されました。その日を記念する日が過ぎ越しの祭りでした。つまり、過ぎ越しの祭りは、神様がご自分の民をどのように救い出してくださったのかを覚えさせる祭りです。ですから、この過ぎ越しの日を覚えさせるのは単純にイスラエルの祭りを守らせるためではなく、神様の救いの御業を覚え、忘れないようにとされる福音の内容なのです。

イエス様も聖餐をとおして“わたしを覚えなさい”(第一コリント11:24;in remembrance of me)と言われたので、こんにちも聖餐式を守っています。聖餐式もキリストの死と復活、イエス・キリストによる救いを覚えさせるためです。こんにちの説教も、CSの教育も結局救ってくださる神様を忘れないようにとする教えではないでしょうか!我々が信じる神様は荒野のような人生の旅路においてもかならず救いの御業を成し遂げてくださる方である事を覚えましょう。

二番目にイスラエルの民に過去40年を覚えなさいと命じられたもう一つの理由は神様の恵みと哀れみ深い導きにもかかわらず、繰り返される不信仰と不従順を悟らせる事によって改めて絶対信仰によって従い通せる決断をさせるためでした。たしかに40年の彷徨(ほうこう)の日々は不従順と不信の連続で、不信仰だった彼らは荒野でみな死にました。彼らが荒野で死んだのは病でもなく、齢でもありませんでした。最後まで神様を信じられなかった彼らの不信仰がその運命を決めたのです。ですから、荒野の40年を覚えなさいという御言葉は最後まで神様を信じ切れ

なかった不信仰と不従順を悟らせるためでした。神様がイスラエルの民に覚えなさいと命じられたのは神様の救いの御業を忘れないようにするためであり、人間の不信仰と不従順にもかかわらず最後まで信じる信仰の民を約束の地に導いてくださる神様の救いを覚えさせるためでした。イスラエルの民がカナンの地に入ってもその救いの神様を忘れないで目に見える偶像を拝まないようにと覚えさせるためでした。

<(2)従順の訓練>

今日の本文で教えられているもう一つはいままでの40年間は決して無駄な荒野での生活ではなく徹底的な訓練の期間であった事です。“あなたがたの主がこの40年間荒野の道を歩かせた事を覚えなさい。”確かに、この40年は失敗と挫折の日々でしたが、決して無駄ではなかった事です。荒野の40年を覚えなさいと言われた後、本文の2節には“それは、あなたを苦しめて、あなたを試み、あなたがその命令を守るかどうか、あなたの心のうちにあるものを知るためであった。”と言われました。30章2節にも「あなたの神、主に立ち返り、きょう、私あなたがたに命じるとおりあなたも、あなたの子どもたちも、心を尽くし、精神を尽くして御声に聞き従うなら、」

イスラエルの民は、たった2週間あれば入れる所を40年の間荒野を歩かせられたのには大切な理由があります。言い換えると荒野での40年はどんな意味があったのかを語られているこの本文の強調点だと思います。それは神様からの訓練の旅程だと言っています。するとどんな訓練を神様は徹底的にさせたのでしょうか？もう一度2節を読んでみましょう。

“それは、あなたを苦しめて、あなたを試み、あなたがその命令を守るかどうか、あなたの心のうちにあるものを知るためであった。”つまり、絶対従順の訓練をさせたのです。神様は時にはイスラエルの民を低くさせ、試練を与えたりすることによって、神様の命令を守り、徹底的に従わせる訓練をさせてくださったのです。

人間は機会さえあれば、高くなろうとする欲望があります。これは墮落した人間の共通の欲望です。人間は物事がうまくいくと自分がえらいからうまくできたと思ひ込みます。人間には高慢になろうとする本能的罪の欲望があります。人が高慢になると、その時から神の御言葉を心から聞こうとも、従おうとしません。このような神様の御民を神様の御前で低くさせ、ちゃんと従える訓練を続けてしてくださいました。

愛する信仰の家族のみなさん、一度考えてみてください!!もしイスラエルの民が容易くカナンの地に入り、簡単にお金を手に入れたなら、まるで自分の力と自分の能力で得たかのように当然高慢になりがちです。これを本文の17節で指摘しています。

“あなたは心のうちで、「この私の力、私の手の力が、この富を築き上げたのだ。」と言わないように気をつけなさい。”

試練と失敗がないなら、自分たちの力と手の力でエジプトを出て、自分たちが勝ち取って、ついに約束の地に入れたのだと高慢になりやすいので、神様は挫折と彷徨と試練の期間をとおして低くさせ、謙遜に徹底的に従える訓練をされたのです。

愛するクリスチャンプレイズちゃちの家族のみなさん！我々の人生の旅程においても時には痛みもあり、苦難も、失敗もあり、誰もが知らない悲しみをいただいたまま辛い日々を送る時もあります。しかし、その時であっても我々の全てを治め、導いて下さっている神様の御手が共にある事を忘れてはいけません。この世の目に見えるものに頼らず、ただ、謙遜になって神様のみを見上げ、徹底的に信じ、従い通させる訓練でもあります。いつも試練の中でも謙遜にならしめてくださる神様の御手が共にあります。結局それがさらに神に祝福される近道だからです。神様は失敗と挫折の40年間を覚えさせる事によって不従順とつづやきの日々を思い出させ、カナンの地に入っては徹底的に神の御言葉に従う事によりさらに祝福される事を神様は約束して下さっています。

“私が、きょう、あなたがたに命じるすべての命令をあなたがたは守り行なわなければならない。そうすれば、あなたがたは生き、その数はふえ、主があなたがたの先祖たちに誓われた地を所有することができる。(1節)”

よちよち歩き始まっている赤ちゃんの姿を考えてみてください。母は赤ちゃんの後ろで赤ちゃんを見守っています。赤ちゃんはよろよろしながら歩いていきます。1人で歩いているようですが、実は親は後ろで一歩一歩一緒に歩きながら守っています。一人で寂しく歩いているようで、一人で苦しんで歩いているようですが、父なる神様は我々を守ってくださってくださっています。その赤ちゃんが自分勝手ではなく、ちゃんと親の声と導いてくれるところを歩めば、安全である事と同じではないでしょうか。荒野の40年は砂漠の真ん中を歩いていても神にただ従えば、守られ、行き通られる事、このような絶対従順の訓練の日々だったのです。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！みなさんは荒野のようなこの人生の旅程の中、徹底的に神様に従って、従順していますか。

第一サムエル記15章22節で「するとサムエルは言った。「主は主の御声に聞き従うことほどに、全焼のいけにえや、その他のいけにえを喜ばれるだろうか。見よ。聞き従うことは、いけにえにまさり、耳を傾けることは、雄羊の脂

肪にまさる。」

<(3)神様が祝福される真の信仰の生き方を分かって変えられるため>

今日の本文で三つ目の教訓は40年間の荒野での旅程の訓練を通して神はイスラエルの民に分からせるためであると教えて下さっています。

3節をご覧ください。“それで主は、あなたを苦しめ、飢えさせて、あなたも知らず、あなたの先祖たちも知らなかったマナを食べさせられた。それは、人はパンだけで生きるのではない、人は主の口から出るすべてのもので生きる、ということ、あなたにわからせるためであった。”

荒野での日々を通して神様は一つ確かな事実を教えようとされました。それは人が肉のパンだけで生きるのではなく、神の口から出るすべての御言葉によって生きる事でした。肉はパンのような食べ物で肥えさせ、丈夫にさせるでしょう。しかし、人は肉だけ持っている者ではなく、心と魂も共にあります。特にこのたましいを肥えさせ、丈夫にさせる方法は神からの御言葉を聞く事が魂を食べさせ、肥えさせる霊の糧である事を教えて下さっているのです。イスラエルの民は荒野を通る時に耕したり、農業の働きなど生きるにしても、食べるにしても実際自分たちの力でできることは何一つありませんでした。なのにも関わらず、どうやって砂漠の中でも生きる事ができたのでしょうか。それは神がイスラエルの民も、先祖たちも想像もつかなかったマナとうずらで毎日彼らをやしなってくださったからです。神の御言葉に聞き従って行っていれば、守られ、満たされ、強く、祝福されて生きるように神様はその道を導き、与えて下さいます。

4節をみてください。“この四十年の間、あなたの着物はすり切れず、あなたの足は、はれなかった。”

40年の間、イスラエルの民が耕しましたか？野菜や果物を栽培しましたか？衣服を作りましたか？靴を作りましたか？実際、彼らは何もしませんでした。ただ神の御言葉と命令に従っただけではないでしょうか。ところが、それによって彼らを生かされ、具体的に必要な彼らの着物はすり切れず、砂漠の熱い道を歩きながらも、足ははれないように守られました。つまり、神様は信じ、その御言葉に従う者には必要なすべてを与えて下さいました。荒野の訓練を通してとおして人間はパンだけではなく、神様の口から出るすべての御言葉によって生きる真の行き方とその道を教えて下さったわけです。この御言葉は**マタイの福音書4章4節**でイエス様が引用された箇所でもあります。

神様は荒野の40年間を通して大事な真理を教えようとされました。それは神様とその御言葉を絶対的に信じて、従い通せば、神様がすべてを解決して下さるという事です。そういうわけで申命記28章以下では従う人への祝福を言い聞かせています。申命記がなぜこんなに御言葉に聞き従う事を強調していたのかいまはよく理解できないかもしれません。しかし、これから続けて学ぶヨシュア記、士師記、サムエル第一、第二を通して、神様がなぜこんなに強調されたのかがすごく理解できるようになると信じます。

失敗と挫折の40年、忘れてしまいたくなるその失敗の40年間をとおしてでも神様はご自分の民を訓練されてきました。信仰によって従う訓練をされてきたのです。**民数記で“神に対する絶対信仰”**が強調されたなら、**申命記では“神の御言葉に絶対従順”**が強調されています。いまの我々はどうでしょうか？

我々ももう一度最近の自分の信仰、御言葉に徹底的に従って来ているのか振り返って見ましょう。そして、今日もう一度改めて目を上げて、心を上に、神を見上げましょう。そして、改めて絶対信仰、主の御言葉に対する絶対従順を決断し、前向きに進みましょう。

私は、今の時期、ただコロナウイルスによるのではなくても、まさに信仰の面において、キリスト者も、家庭も、教会さえも混乱と混沌の時代になっているのではないかと思います。なかなか本来の神の教会やキリスト者の姿が変質され、しっかり聖書の御言葉の土台の上に立って徹底的に従うべき信仰の本質から外れ、クリスチャンの信仰の生き方と価値観、生活が世の未信者との区別が出来なくなり、主の教会も、絶対的な神の御言葉の権威と力を信じられず、疑ったり、まるで不十分かのように、続けて人間の思想やシステムを取り入れようとしながら、いつの間にか教会と世の企業との区別が付かなくなりました。むしろ、ある方は教会ももっと企業化になるべきかのように訴えたり、主張する声も高くなり、教会の中がますます混沌と混乱されて来ているのではありませんか。そのため、当然、神様が本来造られた家庭の姿も珍しくなり、見えなくなっている混沌な時代になっているのではありませんか。多くのクリスチャンの家庭も混乱し、教会では牧師で、役員で、長年立派な信仰生活をして、家庭の中では、まったく信仰の教育と模範が見えなく、御言葉と祈りを失って本来の家庭の姿、家族の関係が崩れているため、今日は、結婚も、家族も、子供もまるでいらぬ、人の自由を奪い拘束させている邪魔もののような扱いにされている混沌の時代になって来ているのではありませんか。

しかし、コロナウイルスによって、我々が失ってしまっていることも多くありますが、反面しばらく、人の力で

うしようも出来ないこの感染症を通して、神様がもう一度我々が失ってしまっている、大切な本質を悟らせ、取り戻せるように、新たなチャンス、リセットのタイミングを与えて下さっているのではないと思っております。コロナによって、家族、家庭よりも、仕方なく会社やお仕事を優先に生きて来た我々をもう一度家庭に、家族に戻らせて下さっています。外にもあんまり出かけられないように、しっかり家族との時間を与えて下さっています。コロナの影響で、主の一回だけの礼拝で、なかなか集まらない家の教会の集いや祈り会、聖書学び会、交わりなどを通して、主の教会の中心とした信仰生活から離れた我々の生活がどれほど、信仰が弱弱しく、自分のすぐ生意気で生きようとするのか、心は寂しく、不安で、空しく、魂に安息がなく疲れてしまうのか、一度の礼拝でも大切に信仰、主の教会と教会の信仰家族の大切さを学ばされます。

この大変な時期、混乱と不安な時代こそ、我々がもう一度、我らの信仰と生き方、価値観を、神様に、聖書の御言葉に、家庭と主の教会に新たに本来の元どおりリセットする時だと思われませんか。もう一度、聖書に立ち返り、聖書が教えて下さった、本来の生き方、家庭、教会を築き上げられる神様が下さった新しい機会として受け止める一年となりますように。キリストの信じる我ら一人一人がリセットされクリスチャンとしての大切な本質を取り戻し、各家庭、主の教会がリセットされ、本来の神様が望んでおられた本来の家族の姿に、本来の教会の姿に、初期化されて行く時、今の危機が新しくリバイバルされ、力強く新たにされ再出発出来る祝福の一年となると信じます！

「あなたの神、主に立ち返り、きょう、私がお前に命じるとおりにあなたも、あなたの子どもたちも、心を尽くし、精神を尽くして御声に聞き従うなら、あなたの神、主は、あなたの繁栄を元どおりにし、あなたをあわれむ。」（申命記30章2-3節）

今年最後まで、人生の最後まで、絶対信仰によって神様のみを見上げ、最後まで主の御言葉に立ち返り、徹底的に御言葉の通りに従い通す絶対従順することによって神様がご自分の民のため約束し、備えて下さって身体的に豊かに祝福と恵みをさらに頂き、実体験されていくクリスチャンプレイズチャーチのみなさんとなりますように祝福します。アーメン!!

<2020年度標語・年間聖句>

2020年度教会標語ー 『新たにリセットして行く信仰の家族』

(申命記30章2-3節)

「あなたの神、主に立ち返り、きょう、私がお前に命じるとおりにあなたも、あなたの子どもたちも、心を尽くし、精神を尽くして御声に聞き従うなら、あなたの神、主は、あなたの繁栄を元どおりにし、あなたをあわれむ。」(申命記30章2-3節)

♥ ① 日々神様中心にリセットして行く信仰の家族

(詩篇121・マタイ22:37-40)

♥ ② 日々聖書中心にリセットして行く信仰の家族

(申命記8:3・テモテ第二3:15-17)

♥ ③ 日々家庭と教会中心にリセットして行く信仰の家族

(詩篇127-128・テモテ第一3:1-13・マタイ16:18-19・エペソ1:21-23)

